

(様式5)

調 査 報 告 書

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成20年 10月 28日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ～ 終了 15時 15分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム どりーむ (鹿児島県)
-------------------	--------------------------

評価調査員の氏名	氏 名 中村 朋美 氏 名 浜田 千里
事業所側対応者	職 名 管理者 氏 名 吉満 英子 ヒアリングを行った職員数 3名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

(別紙 4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4672200112号		
法人名	有限会社 童里夢		
事業所名	グループホームどりーむ		
所在地	鹿児島県指宿市開聞十町5210-4 (電話) 0993-32-0313		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年10月28日	評価確定日	平成20年11月15日

【情報提供票より】(平成20年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 14日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算	6.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,500 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	130 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88 歳	最低 77 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	赤崎病院・慈光会宮嶺病院・宇宿ひふ科クリニック・鶴留医院・福岡医院・開聞歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の住民から認知症対策や介護などの相談を受けたり、災害時の協力連携などが図られているホームである。天候や入居者の状況に応じて、戸外での外気浴を支援し、日々の散歩やグランドゴルフ・お茶のみなど積極的に行なっている。これらを通じて地域住民との挨拶や会話などのふれあいがある。開設時より「心を大切にしたい関わり、個々のニーズ・ペースにあった支援」の理念を職員は常に心がけている。またケアの課題点や評価項目の疑問点などの話し合いの場を持ち、意見を出し合いながら積極的に質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員で話し合い、地域密着型サービスとしての理念の見直し、年間研修計画など評価を活かした取り組みをしており、改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 毎月の職員会議や日々のケアの中で、各項目の共通理解に努めている。自己評価は管理者が一通りまとめ、職員会議で一項目ずつ話し合いながら全職員で取り組んでおり、ケアや視点を改めて気付く機会となっている。評価を活かし職員で検討しながら質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、ホームの現状や取り組みなどの報告や、全国のグループホームの事例、市町村担当者からの意見などがある。運営推進会議の開催場所・災害防止対策・地域との交流など、出された意見を活かすよう努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に入居者の近況報告や思っていることなどを相談しながら、会話の中から意見を引き出すよう努めている。家族の意見などを活かし、職員で話し合い、家族にも説明報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や外気浴時などの挨拶やお茶のみ・資源回収の参加・学生やボランティアの受け入れ・豊年祭りでのふるまい(接待)など、地域の一員として地域住民との交流に努めている。また災害時の協力体制が整っており、地域住民参加の防災訓練、終了後の反省会を兼ねた親睦会や認知症対策や介護などの相談等を受けたりしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時よりケア理念「心を大切にしたい関わり、個々のニーズ・ペースに合った支援」を重点的に目指し、今年度、職員で検討し「地域と共に支えあいながら日々を穏やかに過ごす」グループホーム独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアについて討議する場面や介護計画を作成する場面など、常に理念を意識し、理念に基づいた支援に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や外気浴時などの挨拶やお茶のみ・資源回収の参加・学生やボランティアの受け入れ・豊年祭りでのふるまい（接待）など、地域の一員として地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月の職員会議や日々のケアの中で各項目の共通理解に努めている。自己評価は全職員で取り組み、ケアや視点を改めて気付く機会となっている。評価を活かし職員で検討しながら質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの現状や取り組みなどの報告や、全国のグループホームの事例紹介や市町村担当者からの意見などがある。開催場所・災害防止対策・地域との交流など、出された意見を活かすよう努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは連携を密にとり、報告や相談をしている。市町村担当者と共に、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話などがあった時は、近況や健康状態・金銭管理などを報告している。		利用者の暮らし方や職員の異動などについて、定期的に家族に報告することが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、入居者の近況報告や思っていることなどを相談しながら、会話の中から意見を引き出すよう努めている。家族の意見などを活かし、職員で話し合い、家族にも説明報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限におさえている。離職者も少なく、入居者と職員は馴染みの関係ができている。職員が代わる場合は、紹介をきちんと行い、入居者の状況や業務など引継ぎ、職員同士連携しながら影響をおさえる配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は年間計画を作成している。資格や希望に応じて外部研修に参加している。内部研修は各担当職員を中心に、料理・レクリエーション・心肺蘇生法などを計画し、研修の報告もあり情報の共有がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム協議会に加入している。運営者を中心に他のグループホームとの相談や連携が図られている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅や入院先などを数回訪問するなど、本人と面談しながら信頼関係を築けるよう努めている。入居後は、他の入居者との関わりを大切に、本人・家族からの情報を得ながら徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事や家事など入居者と職員は一緒に楽しんでいる。食材の使い方や昔の唄など入居者から学んでいる。入居者からねぎらいの言葉をかけてもらうなど、共に過ごし支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、個々の意思確認を常に意識したケアを心掛けている。定期的にゆっくりと個別に話をする機会を設け、本人の表情や言動、職員の言葉かけの工夫など意向の把握に日々努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を把握している。職員は毎日のミーティングや毎月の職員会議などで、課題点などを話し合い、意見を出し合っている。担当者会議を行い、本人・家族・職員などの意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の申し送りや個別の介護記録など、日々状況確認や検討をしている。3ヶ月毎のモニタリング評価を行い、介護計画の見直し修正を行なっている。大きな心身の変化の場合は、本人、家族、医療機関、職員などの意見を反映させた新たな介護計画を随時作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者・家族の意向や状況に応じ、通院や墓参りなど、特別な外出支援を柔軟に対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、かかりつけ医である。受診時に付き添うことで、主治医と直接話し、情報提供や相談連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に意向の把握を行っている。入居者の状況に応じ、できるだけ早期に医療機関・家族・職員と話し合いながら、方針の共有に努めている。ホームの対応指針は作成されていない。	○	ホームのできる最大限の支援や対応方針を全職員で検討し、重度化や終末期にむけた対応指針を作成することが望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した言葉かけや対応をしている。日々の関わりのなかで、馴れ合いにならないよう日々意識づけを図っている。記録や個人情報も職員への徹底が図られ、管理者の責任のもと適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者一人ひとりのペースに合わせて生活ができるよう柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を取り入れている。畑の野菜の収穫・買い物・調理の下ごしらえ・箸配りなど入居者のできることをしてもらいながら、共に食事を楽しむ支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的に週3回としている。入居者の希望や状況に応じ、柔軟に入浴ができるよう支援している。入浴が億劫な入居者には声かけや対応を工夫し、無理強いすることなく入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえや洗濯などの家事の役割がある。また読書・唄・踊りなどの楽しみごとや、ドライブ・買い物などの気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の状況に応じ、日常的に散歩や外気浴などしている。お茶やグランドゴルフなど戸外で楽しんでいる。ドライブや買い物なども随時支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員間で声をかけ合い、所在や安全確保に努めながら、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いや地域住民の協力のもと、避難・消火・通報訓練等をしている。定期的な防災訓練で、昼・夜を想定したり、非常時に備え、自家発電機が設置してある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に毎食の摂取記録をしている。水分摂取量も大まかに把握し必要に応じて記録し、適切な水分補給に努めている。栄養バランスに考慮した献立に努めている。意向や状況に応じ、食品の代替や形態（刻み、おかゆなど）の工夫、嗜好品の活用などの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く圧迫感がない。家庭的な温かみのある雰囲気であり、調理の匂いが五感を刺激する。季節感のある創作物の展示や音や光に配慮しており、居心地よく過ごせる空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、テレビ・本・ラジカセ・タンス・化粧品・家族の写真などがそれぞれ持ち込まれており、本人が落ち着いて過ごせる居室である。入居者の希望に応じてフローリング床や畳敷きにするなど配慮がされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式 1）を添付すること。